

No.50 学校と地域全体が連携して取り組む交通安全指導

- 管 内 釧路管内
- 分 類 通学路の点検 交通安全教室 安全教育 その他（ ）
- 教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校 種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 地域全体で児童の登下校を見守る安全指導の充実
- 保護者、関係機関等と連携を図り、体験的な活動を取り入れた交通安全教室の実施

■ 取組の実際

ねらい

- 地域の関係機関や団体と連携し、児童の登下校の安全を確保するとともに、児童が通学路等における危険について理解し、安全な歩行や自転車等の利用ができるようとする。

内 容

1 家庭や地域と連携した安全指導の取組

- 家庭と連携した安全マップの作成
 - ・校区内の危険箇所について、保護者や地域住民からの情報をもとに安全マップを作成した。また、安全マップを活用して各学級において安全指導を行うとともに、全家庭に安全マップを配布し、親子で調整池や排水溝などの危険箇所や交通事故が想定される交差点などについて確認するよう促した。
- 地域全体で行う登下校安全指導及び環境整備
 - ・各学期の始めに、学校が、PTA、パトロールボランティア、警察と連携し、地域全体で登下校安全指導を実施した。
 - ・学校、PTA、自治会、役場、交通安全課、教育委員会の五者で通学路の合同点検を実施するとともに、見通しが悪く、事故が想定される道路については、道路脇の草刈り作業を行い、看板及びカーブミラーを設置した。



2 交通安全の意識を高める取組

- 保護者、関係機関との連携を図った交通安全教室
 - ・交通安全教室では、交通安全に対する児童の意識を高めるため、PTAと連携し、大型車による段ボールを使った巻き込み事故の実演を行った。
 - ・大型車の運転手の死角について理解を深めるため、児童がトラックの運転席に座り、小学校低学年が見える範囲を確認する体験的な活動を行った。乗車した児童の意見をもとに、死角となる範囲を可視化するなどの工夫をし、大型車の周りで遊ぶことの危険性について理解を促した。
 - ・警察官から、小学生の交通事故の事案及び危険回避のポイントについて説明・確認をした後、自転車の実技指導を行った。ホームルームで、再度、自転車の乗車指導を行い、学級通信で保護者への周知を図った。



成果と課題

- 関係機関と連携した体験的な活動を取り入れた交通安全教室を実施したことにより、児童の交通安全に対する意識が高まり、日常生活において安全に留意した歩行及び自転車の乗車を心がけるようになった。
- 交通安全に対する児童の意識を一層高めるため、保護者や関係機関等との連携を強化するとともに、定期的な意見交流会を実施し、自校の安全計画及び安全教育に関する取組の検証・改善を図る必要がある。